広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2024年（令和６年）
12月１日　発行
12
No.1119
December 2024

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和６年10月末現在
男　15,349人
女　15,232人
総人口　30,581人
世帯数　13,617世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００－８００－８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

メス　　オス

里山に育む生きものたち

№149　マガモ

学名　*Anas platyrhynchos*

写真・文　仲田　立

▼マガモ（真鴨）とは

カモの仲間を代表することから、和名で「マガモ」と言われます。冬鳥で全国に渡来するカモとして最も数が多い種類ですが、近年は減少傾向にあります。本州の高地や北海道でも繁殖しますが、茨城県では局所的に繁殖している可能性があると言われますが、筆者は確認できたことはありません。

雄は、頭部が緑色で光沢があり、この頭部の色から別名で「あおくび」と呼ばれます。体はほぼ灰色で胸は茶色です。中央尾羽は黒く、上に巻きます。雌は全体に褐色で、頭頂と過眼線※が黒く、くちばしは橙色です。カルガモとほぼ同じ大きさの大型のカモで、雌は遠くから見るとカルガモに似ています。

※過眼線（かがんせん）…鳥類で、くちばしの根元から目を通って後方に伸びる線状の模様。

▼マガモの数

目に多いカモ類で、ここ３年は12月から１月の５０羽ほど見られましたが、近年は１０羽ほどに減少しました。極東ロシアから飛来し、10月下旬から３月初旬まで見られ、スズガモよりも少し早く帰ります。大きい群れは、宮ヶ崎の西寄りです。

▼水面採餌ガモと潜水採餌ガモ

カモは、水草や水辺の草の実などを主に食べるものと、水面採餌ガモと、潜水して軟体動物（貝類を含む）、甲殻類、昆虫類、水草などを食べる潜水採餌ガモに分けられます。カモは過度な競争を避けて共存するため「すみわけ」しています。

涸沼でよく見られる水面採餌ガモは、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモなどです。一方、潜水採餌ガモは、スズガ

マガモの群れ（宮ヶ崎地内撮影）

モ、キンクロハジロ、ホシハジロなどです。

また、水面採餌ガモは、水面に浮かんでいる時に尾を高く保ち、飛び立つときに助走なしで飛び立つことができます。一方、潜水採餌ガモは、尾が水に浸かるほど沈むまで時があり、飛び立つときに助走を必要とします。このような違いに慣れてくると、たとえ色が見えにくい１キロメートル先からでも、シルエットトルでカモの種類が分かるようになります。

ちびっ子アート　大戸幼稚園

「おばけのおしろ」

（左から）
にし　こうき（６歳）
おせ　れいか（６歳）
さとう　くるみ（６歳）
はやし　かい（６歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています